

安全・安心な生活の実現

市町・県・関係者などと連携し、ハード面・ソフト面での一体的な対策を推進することで、大規模災害や人口減少・超高齢社会にシなやかに対応し、安全・安心な生活を実現します。

具体的な取組

- 「地震・津波対策アクションプログラム 2013」に基づく災害対策の推進
- 防災・減災に向けた広域的な展開
- 命の道の優先的な整備（伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等）
- 「静岡県東部地域における道路啓開基本方針」等に基づく協力体制の構築
- 観光地としての安全性の向上
- 伊豆半島ジオパークの活用等による防災意識の向上
- 地域医療体制の確保・地域包括ケアシステムの推進
- 健康寿命の延伸に向けた施策の展開
- 出産・子育て支援施策の拡充

これまでの取組とこれからの課題

各市町において「地震・津波アクションプログラム」を策定・推進したほか、列車運行時の旅客避難誘導訓練や、静岡県の総合防災訓練において観光客の避難誘導訓練を実施するなど、観光防災に関する取組を行いました。引き続き、アクションプログラムに基づく地震・津波対策を進めるとともに、近年頻発する台風・大雨などの大規模自然災害を見据えた防災・減災対策の充実を図っていきます。加えて、様々なライフステージに応じた福祉の充実も推進していきます。

官民協働による施策の推進

地域づくりを担う推進組織の機能強化を図り、目標実現に向けた戦略展開の確実な推進と、伊豆半島地域の将来を担う人材の育成を行います。

具体的な取組

- 各種広域団体との連携・事業整理
- 伊豆の未来に必要な人材・組織の育成
- 行政機能の連携に関する検討（広域連合を含めた将来課題としての検討）

これまでの取組とこれからの課題

平成31年4月「伊豆半島グランドデザイン」の推進組織として設立された任意団体「美しい伊豆創造センター」と、日本版DMO法人の登録に向けて設立された一般社団法人「美しい伊豆創造センター」を統合。新たな「美しい伊豆創造センター」として当グランドデザインの事業展開を進めることとしました。今後も、体制強化のため、各種広域団体との役割分担を明確化し、より効果的な連携体制を構築していきます。

問合せ先：伊豆半島7市6町首長会議 事務局

〒414-8555 静岡県伊東市大原二丁目1番1号 伊東市役所 企画課内
電話：0557-32-1061 FAX：0557-36-1104 メールアドレス：kikaku@city.ito.shizuoka.jp



概要版

伊豆半島 グランドデザイン

～伊豆を一つに、世界から称賛され続ける地域を目指して～

伊豆は詩の国であると、世の人はいう。
伊豆は日本歴史の縮図であると、ある歴史家はいう。
伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。
伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。
伊豆半島全体が一つの大きい公園である。一つの大きい遊歩道である。
つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある。

川端康成「伊豆序説」より

伊豆半島7市6町首長会議

沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市
東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町

伊豆の美しさを、さらに輝かせるために

「伊豆らしい」「伊豆だからこそ」の『美しさ』を世界レベルに高め、多くの人から称賛され続ける美しい半島を目指します。

美しく変化に富む環境、美しく品格のある営み、美しく健やかな人。

伊豆には「伊豆らしい」「伊豆だからこそ」の美しさがあります。

「伊豆半島ランドデザイン」は、そんな伊豆の環境・営み・人の美しさにさらに磨きをかけ、世界一美しい半島を目指す計画です。今年で7年目を迎え、様々な成果を上げているランドデザインのさらなる進展のために、基幹戦略と4つの重点戦略について、これまでの成果とこれからの課題をまとめました。

「伊豆半島ランドデザイン」

基本理念

世界から称賛され続ける美しい半島 伊豆

基幹戦略

世界一美しい半島プロジェクト

様々な機会・機能を集約して、環境・営み・人の3面で「美しい半島」にさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信します。

具体的な取組

- 伊豆半島ユネスコ世界ジオパークの推進
- 文化・芸術活動の推進
- 官民の美化活動の活性化・広域化
- 世界に誇れる地域資源の魅力の向上と発信
- 美しいまちづくりの推進
- 美しさに関係する産業の集積
- サイクルスポーツの聖地づくり
- 美しい半島の景観形成
- 国際的な健康保養都市づくり
- 地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上

これまでの取組とこれからの課題

伊豆半島が「ユネスコ世界ジオパーク」に認定（平成30年）され、ビジターセンターの設置、ジオサイトの整備などを積極的に進めてきました。引き続き、伊豆半島世界ユネスコジオパークをリーディングプロジェクトとして推進していくとともに、世界文化遺産「韮山反射炉」や世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」など世界に誇れる地域資源の魅力向上と発信、「東京2020オリンピック・パラリンピック」におけるレガシーの創出と活用にも取り組んでいきます。

重点戦略

1

交流産業クラスターの創出と再生

交流者の視点に立ち、交流者に満足を提供できる交流産業クラスターの形成を図ることで、伊豆ブランドを再構築し、雇用創出及び地域活性化を促進します。

具体的な取組

- 交流産業としての連携強化と地域プロジェクトとしての位置づけの明確化
- ブランディングの推進
- 交流コンテンツの創出と情報発信・提供機能の強化
- ICT（情報通信技術）活用
- 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技伊豆開催のレガシー創出
- 農林水産業の振興
- 富士山、箱根との連携の強化
- 関係人口の創出と拡大
- 交流産業を担う人材の育成・確保
- 地域全体でのおもてなしの心の醸成

これまでの取組とこれからの課題

「美しい伊豆創造センター」を中心に、地域ブランドの商品展開や伊豆半島地域の魅力発信など、ブランディングに関わる事業を積極的に実施してきました。今後は、伊豆半島の「ユネスコ世界ジオパーク」認定や「東京2020オリンピック・パラリンピック」自転車競技の開催がもたらす、交流産業を取り巻く環境の変化に対応し、効果的な地域の魅力発信、おもてなしの心の醸成、交流産業を担う人材の育成・確保などに取り組んでいきます。

重点戦略

2

ネットワーク型交通・高次都市機能*の整備

伊豆縦貫自動車道、肋骨道路への戦略的投資、陸・海・空のネットワーク化、コンベンション等の高次都市機能の構築・充実を図り、快適な環境を創造します。

具体的な取組

- 命の道としての伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等の優先的な整備
- 域内流入拡大のための新規道路整備に向けた環境整備
- 快適な道路環境の整備
- 公共交通機関の利便性の向上
- 首都圏、空港（静岡、羽田等）との接続性の維持・向上
- 高次都市機能の構築・拡充

これまでの取組とこれからの課題

伊豆縦貫自動車道及び国道135号の整備を進めたほか、駅構内などの乗換案内の多言語化など交通結節点の機能強化を図りました。引き続き、伊豆縦貫自動車道の整備を進めるとともに、開通区間の開通効果を地域全体に速やかに波及させるため、道路ネットワークの整備を続けます。さらに陸・海・空のネットワーク化の推進、主要駅舎などのゲートウェイ機能の充実などに取り組み、公共交通機関の利便性向上を進めていきます。

*高次都市機能：行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響のある機能